

『小右記』に見られる感情表現

清水 教子
Noriko Shimizu

一 初めに

『小右記』（以下、本文献と呼ぶことにする。）は、藤原実資の日記である。藤原実資は、天徳元年（957）から永承元年（1046）まで生存した平安中期の公卿で、右大臣・従一位にまで成っている。周知のように、藤原道長とは政治家としてライバル同士であった。

ところで、本稿の目的・方法等は、以前に藤原道長の『御堂関白記』で試みた拙稿（『御堂関白記』の感情表現——中国短期大学紀要第14号、昭和58年3月）を御覧いただくことにし、ここでは省略する。

本文献は、天元元年（978）から長元五年（1032）まで、実資22歳から76歳までの日記であり、巻数不詳とされている。本稿の調査資料としては、内閣記録局所蔵秘閣61冊本を底本とした『小右記』一二三の三冊（増補史料大成刊行会編、昭和48年発行、臨川書店）を用いた。具体例の引用は、例えば天元五年正月一日の記事（一冊目1ページ所収）ならば、「午時許参殿」（天元五^ノ一^ノ一）と記すことにする。

なお、後出の用例数一覧は、調査不十分により少なくとも何例あるというふうに御覧いただきたい。

二 本文献に見られる感情表現

本文献に見られる感情表現は、先述の拙稿で試みたように、人間にとってその感情が快か不快か、という観点で大きく二分して述べていくことにする。ただし、本文献の感情表現の種類は、『御堂関白記』のそれに比べ6、7倍もあり、紙幅の制限上全てを記述することができず、いくつかを重点的に取り上げていくことにする。

（一） 快を表す場合

快を表す場合は、喜びを示すものと相手を褒めるものが多い。前者は、和語としてよろこひ（悦・慶・喜・歓）・よろこぶ（悦・喜・歓）・よろこびおもふ（悦思・喜思・歓思・歓念）・なみた（涙）・おそれよろこぶ（悚歓）など、字音語としてケイガ（慶賀）・ガ（賀）・ガヘウ（賀表）・エツヨ（悦予）・カンエツ（感悦）・キエツ（喜悦）・キンエツ（欣悦）・キョウエツ（恐悦）・キンキン（欣欣）・スイキ（随喜）・ラクルイ（落涙）・カンルイ（感涙）・テイキフ（涕泣）など、混種語としてよろこひカンす（忻感）・カンしおもふ（感思）などがある。後者は、字音語としてカントン（感嘆）・

カンシャウ（感賞）・シャウタン（賞嘆）・ハウシャウ（褒賞）などがある。

1. 喜びを示すもの

いくつか具体例を挙げて示すと、よろこひは(1)入夜宰相来云 今日相逢権大納言 小男参入 令召前被示雑事、更召出隨身給禄、無極之悦也者（治安四 $\frac{3}{4}$ 三10）、よろこふは(2)摂政被向新造二条第（中略）未被遷移之前有煩参詣 仍従内参入 頗有悦気（長和五 $\frac{3}{20}$ 二85）、よろこひおもふは(3)仍以資平 令示女房 被仰云 時時参入事 歎思之間 今日又参入 有訪申 弥所悦思 日来嘆息相府病 而従昨日宜由聞喜者（寛弘九 $\frac{1}{6}$ 一275）、おそれよろこふは(4)資平参皇太后宮 便有令訪給 悚歎無極（長和二 $\frac{3}{21}$ 一318）、なみたは(5)又云 東寺孔雀経読経事 僧正随喜無涯 発願間感涙数行 諸僧拭涙（治安三 $\frac{3}{20}$ 二407）のように用いられている。また、ケイガは(6)昨初移新舎之日 一家三人有慶賀（寛仁三 $\frac{1}{22}$ 二307）、ガは(7)今日所奉左大臣五十賀云云（長和四 $\frac{1}{20}$ 二43）、ガへうは(8)又七日代代上賀表 是已同賀悦之事也（寛仁元 $\frac{1}{17}$ 二163）、エツヨは(9)晚景知道朝臣归来云 相对座主相伝消息 深有悦予之報 従一昨頗得尋常者（長元二 $\frac{1}{10}$ 三213）、カンエツは(10)右近府生安春 無所言直進庭前 見其気色似有物要 仍賜絹一疋 感悦極深 窮困者也（長保元 $\frac{1}{29}$ 一164）、キエツは(11)山階別当僧都扶公来言探題慶 深有喜悦（万寿二 $\frac{1}{20}$ 三85）、キンエツは(12)弘暁 取宮御悩案内 宜御坐者 欣悦了（長保元 $\frac{1}{29}$ 一152）、キョウエツは(13)禅閣以能通朝臣有懇切御消息之詞 即令申恐悦由（治安三 $\frac{1}{4}$ 二373）、キンキンは(14)外記可□親王 通達之人可相儲之由 差隨身□武 密示前左衛門督 返事感悦再三所示也云云 簾□女等奔走 有忻忻声云云（長元四 $\frac{1}{9}$ 三287）、スイキは(15)若有对面 且可伝申云 先日僧正之所陳 已以相合感嘆 随喜随喜（長和二 $\frac{1}{16}$ 一331）、ラクルイは(16)奉為一条院 令供養法華經（中略）殊以已講永照為講師 积経優妙 落涙難禁（寛仁三 $\frac{1}{22}$ 二260）、カンルイは(17)左大臣更召取行義朝臣横笛 授式部卿親王 令吹（中略）親王吹笛之間 右大臣 大納言道綱卿拭感涙（長和四 $\frac{1}{4}$ 一421）、テイキフは(18)天皇出御 太子出自休廬 其処立白木端至木下拜舞 作法無失 見者感嘆 左相府涕泣（長和三 $\frac{1}{17}$ 一404）、よろこひカンすは(19)雖駕駘可志与由令相示了 有忻感色云云（万寿二 $\frac{3}{4}$ 三43）、カンしおもふは(20)談雑事次云 一日応召 早参行立后事 并除日事 極所感思（寛弘九 $\frac{1}{11}$ 一266）のようにそれぞれ用いられている。

また、それぞれの感情の度合いは、具体例(15)のような反復、(1)(4)(9)(11)のような形容詞きはまりなし（無極）やふかし（深）、(2)(3)(10)(20)のような程度副詞すこふる（頗）・いよいよ（弥）・きはめて（極）などにより示されている。その外具体例は挙げないが、すくなからず（不少）、形容詞はなはたし（甚）、程度副詞はなはた（甚・太）・もとも（尤・最）などが用いられている。

2. 相手を褒めるもの

カンタンは(21)後日四条大納言云 帥宮才智太朗 尤足感嘆云云（長保二 $\frac{1}{24}$ 一359）、(22)遍教律師廻見堂 感嘆無疆云云（治安三 $\frac{1}{2}$ 二374）、シャウタンは(23)今夜尚侍出一条院別納 上達部東宮殿上人有饗饌禄等云云 懐妊被退出 依被賞嘆其事有禄歎（万寿二 $\frac{3}{11}$ 三45）、カンシャウは(24)僕大饗於小野宮行之 皆是故殿旧儀 於此宮被行 初任大饗 一以無失 時人感賞（治安元 $\frac{1}{25}$ 二318）、ハウシャウは(25)資通朝臣伝閑白消息云 貞清朝臣穀倉院内造舎倉門屋等也 復旧基 尤可被褒賞（長元元 $\frac{1}{29}$ 三184）のよ

うにそれぞれ用いられている。

褒め方の度合いは、具体例(21)(22)のような程度副詞もとも(尤), (22)のような形容詞かぎりなし(無疆)などにより示されている。その他具体例は省略するが、1.喜びを示すもので上述したように、形容詞きはまりなし(無極)・ふかし(深)・はなはたし(甚)などが用いられている。その外(24)東大寺別当僧都深覚枉駕 清談次云 入道殿可住給所 所汝申之旨 只今或伝談 已合我所思 不堪感嘆所来也者(寛仁三 $\frac{1}{2}$ 二242)のようにたへす(不堪)も用いられている。

3. その他

1.喜びを示すものや2.相手を褒めるもの以外では、相手に感謝する気持ちを表すシヤす(謝), 機嫌のよいことを示すケシキよろし(気色宜), 気持ちがよいことを表すころよし(快), 心に憂いがないことを示すころやすし(心安), 受けた恥をぬぐい消す意のはちをきよむ(雪辱), ねんごろで親切なことを示すコンセチ(懇切), 性質が穏やかなことを示すヲンワ(温和)を取り上げておく。

具体例はシヤす(25)師重云, 参内之後源中納言立過 為謝灌頂僧前之悦歎(長元元 $\frac{1}{3}$ 三182), ケンキよろし(26)早旦資平来云 加階事 昨日以新源中納言 達左相府了 気色頗宜者(長和四 $\frac{1}{10}$ 二21), ころよし(27)神泉御修法間甘雨快降 弘法大師遺法 驗徳掲焉(寛仁二 $\frac{6}{8}$ 二194), ころやすし(30)余答云(中略) 参会之時間雑事 甚心安者(長元四 $\frac{1}{3}$ 三216), はちをきよむ(31)答云(中略) 但為男尤可哀憐 今年許立腋 欲雪数年之恥者(長元四 $\frac{1}{10}$ 三264), コンセチ(28)入夜府生重孝申云(中略) 二后可令見物給 是入道殿懇切被勸聞云云(寛仁三 $\frac{1}{10}$ 二268), ヲンワ(32)兩府清談 予交言語 左府気色太温和(寛弘八 $\frac{1}{30}$ 一231)のようにそれぞれ用いられている。

感情の度合いは、具体例(29)すこふる(頗)・(30)はなはた(甚)の程度副詞の外に、形容詞きはまりなし(無極)も用いられている。

以上、快を表す場合の感情表現についていくつか述べてきた。喜びを示すものとして、和語の外に字音語の種類が多いのに気付く。また、相手を褒めるものも字音語が目立つ。感情の度合いの表現は、きはめて・はなはた・もとも・すこふる・いよいよなどの程度副詞、きはまりなし・かぎりなし・はなはたし・ふかしなどの形容詞、すくなからす・たへす、同一語の反復などによることがわかった。なお、次の具体例(34)今日 源中納言外孫 於桃園家加元服云云 雖有消息不向 候宿御事也 有御気色之由少将乳母密密相談 感悦之腸一時千廻(天元五 $\frac{2}{10}$ 一12), (35)太相府被参 被候殿上 奏云 皇后宣命慶前後不覚 頻載朝恩 不知所為(天元五 $\frac{3}{11}$ 一16)が示すように、喜びの度合いを「腸一時千廻」「前後不覚」という表現で示したものもある。

(二) 不快を表す場合

不快を表す場合は、1.嘆き・悲しみ・愁いを示すもの、2.哀れみを示すもの、3.恥や悔いを示すもの、4.驚きや恐れを示すもの、5.あざけりやのしりを示すもの、6.恨みや憎しみを示すもの、7.怒りを示すものが目立つ。以下、具体例を挙げて順番に述べていく。感情の度合いは、一括して最後に述べる。

1. 嘆き・悲しみ・愁いを示すもの

嘆きは、なげき(嘆)・なげく(嘆)・タンソク(嘆息)・サタン(嗟嘆)・ああ(嗟呼), 悲しみは、かなしひ(哀)・かなしふ(悲)・かなし(悲)・なみた(涙)・ラクルイ(落涙)・テイキフ(涕泣), 愁いはうれへ(愁)・うれふ(愁)がそれぞれ中心となる。それ以外は後出の一覧表が示すように、うれへなげく(愁嘆)・なげきかなしふ(嘆悲)・かなしひなく(悲泣)などの複合語が目立つ。

なげきは(1)但文書悉焼亡 不取出一枚為嘆(正暦四 $\frac{1}{25}$ -86), なげくは(2)三宮御事 男女子等事内 尤所嘆 只皇太后宮御事而已(寛弘九 $\frac{1}{9}$ -277), タンソクは(3)良円示送云 和尚自去夕不覚 甚難憑者 嘆息無比(寛仁三 $\frac{3}{26}$ -282), サタンは(4)今日陰陽師等占云 病忽不可平愈 似可慎者 相府深以嗟嘆云云(寛弘二 $\frac{1}{4}$ -169), ああは(5)爰知劣自古人 而称自賢 嗟乎嗟乎(寛仁二 $\frac{1}{2}$ -214), かなしひは(6)隱哀有罪如何(長和五 $\frac{1}{23}$ -54), かなしふは(7)惑取坊門羅城門左右京職寺石云云 可嘆可悲 不足言(治安三 $\frac{1}{11}$ -351), かなしは(8)宰相密談 件鴉尾以鉛鑄造 以鉛為宛法成寺瓦料云云 万代之皇居一人自由乎 悲哉悲哉(万寿二 $\frac{1}{12}$ -63), なみたは(9)彼宮内之人悲泣連声 聽者拭涙(長徳二 $\frac{1}{28}$ -115), ラクルイは(10)此閨梨十有余年有所恨無來者 夏以降已有和氣 今日談説旧事 落涙如雨(長徳三 $\frac{1}{9}$ -135), テイキフは(11)禅閣過登花殿之間 涕泣如雨 件殿故尚侍旧曹也(万寿二 $\frac{1}{12}$ -82), うれへは(12)日来雨沢不降 有早損愁云云(長和五閏 $\frac{1}{3}$ -452), うれふは(13)撰政曰 今一町後年更充若有所愁歎(寛仁三 $\frac{1}{2}$ -286), うれへなげくは(14)此間左府作法奇也怪也 年齢七十有四 近日深有愁嘆云云 而強忍追從(寛仁元 $\frac{1}{12}$ -141), なげきかなしふは(15)搜於夜御殿内 后母敢無隱忍 見者嘆悲(長徳二 $\frac{1}{9}$ -117), かなしひなくは(16)又云(中略)産婦母忽為尼 其後産婦僅蘇生 猶不可憑 父母悲泣者(万寿二 $\frac{1}{28}$ -68)のように、それぞれ用いられている。

なお、もう一例付け加えておく。(17)宰相來云 去夜移尚侍於法興院 禅閣閑白已下相送 猶被住彼寺云云 不堪恋慕歎(中略)宰相參法興院 衝黒婦來云 女房哭泣声無間隙 上達部会合 禅閣悲嘆無極(万寿二 $\frac{1}{3}$ -61) レンホ(恋慕)は三卷本色葉字類抄に「悲詞」とあるが、この例では亡くなった尚侍を恋い慕う気持ちに耐えられないということである。また、コクキフ(哭泣)は泣き叫ぶことであり、かなしひなげく(悲嘆)は悲しみ嘆くことである。

2. 哀れみを示すもの

哀れみは、あはれふ(憐)・アイレン(哀憐)・フヒン(不便)などによって表されている。あはれふは(18)入夜 山井三位公過 清談間夜漏闌 演出家志 太可憐(寛弘二 $\frac{1}{18}$ -182), アイレンは(19)東獄門前令堀井 夫食自家宛給 年来囚徒難飲水 仍仮令堀 渴死囚衆 実可哀憐(長徳二 $\frac{1}{13}$ -119), フヒンは(20)四条大納言余暫祇候入道殿 脳苦御声極不便也(寛仁三 $\frac{1}{25}$ -254)などの例によって示されている。

3. 恥や悔いを示すもの

恥は、はち(恥)・チシヨク(恥辱)・はつ(恥)などにより、悔いはくゆ(悔)により示されている。はちは(2)此間成市見咲者衆(中略)啓中宮 中宮乍驚聞相府 彼夜兩人已見恥歎(長和四 $\frac{1}{9}$ —419), チシヨクは(2)資房云 江典侍 樋洗童 為大納言齊信卿童女忽有顯露 及天聰 被仰実康 女官及公女候女等到彼直廬辺成市 仍見 已似恥辱(万寿四 $\frac{1}{4}$ —148), はつは(2)宰相來談 道成所陳事等 新中納言事也 高松已合応 彼納言亦甘心 但無早氣 只依恥身也云云(万寿二 $\frac{1}{9}$ —102)などの例で示されている。また、くゆは(2)前日宰相云 守道占云 加持吉 吉平陳不快由云云 先日説与源納言説已以相違 前日説或説云云 加持事深有悔色云云(万寿二 $\frac{1}{9}$ —62)の例で示されている。

4. 驚きや恐れを示すもの

驚きは、和語おとろく(驚), 字音語キヤウカイ(驚駭)・キヤウテン(仰天), 複合語あやしひおとろく(奇驚)・おとろきあやしふ(驚奇)・おとろきまとふ(驚惑)などにより示されている。恐れは和語おそれ(恐・怖)・おそる(恐・懼・怖・畏)・おそろし(恐), 字音語フキ(怖畏)・キヨウフ(恐怖)・キヨウク(恐懼)・キヨウクワウ(恐惶)・キヨウキヨウ(恐恐), 複合語おそれおもふ(怖思)・つつしみおそる(慎恐)・ははかりおそる(憚恐・憚懼)・おそれつつしむ(恐慎)・おそればはかる(恐憚)などにより示されている。また、驚きと恐れと両方を含んだものとして、おそれおとろく(恐驚)・おとろきおそる(驚恐)・キヨウク(驚懼)などが用いられている。

おとろくは(2)大臣未有向納言家之例 天下之人頗驚無極(永観二 $\frac{1}{6}$ —45) (2)太皇太后宮大夫公任示送云 宮惱氣御坐者 乍驚申達案内(長和四 $\frac{1}{9}$ —25), キヤウカイは(2)只依次第 有可被任懐忠一人之気色 而被加道綱 左僕射一日令奏康保四年伊尹越帥氏任権大納言之例 是村上先朝之例也者 極所驚駭(長徳三 $\frac{1}{9}$ —135), キヤウテンは(2)又去月晦比 両夜四条小人宅焼亡 常陸介惟通旧妻宅 群盜付火 惟通女被焼殺 当時已無憲法 万人抱膝仰天(寛仁三 $\frac{1}{9}$ —242), あやしひおとろくは(2)掃部官人云 無打私宮者 太以奇驚 又又令案内(長徳三 $\frac{1}{8}$ —141), おとろきあやしふは(2)大納言公季 中納言道綱 参議齊信 預参議席 正三位加階 足驚奇者也(長徳二 $\frac{1}{2}$ —122), おとろきまとふは(2)野鹿走入昇板敷上 入上達部中 越中宮大夫肩走迷 大殿及卿相起座経営 諸僧殿上人諸大夫驚惑群立(寛仁元 $\frac{1}{9}$ —135)などの例により示される。

おそれは(2)召遣府夫進法師 今一人男成恐逃去 召問法師(長元四 $\frac{1}{10}$ —259) (3)以左大将被示云 冒雨過訪太為恐 所煩未平復 不能相逢者(寛仁二 $\frac{1}{4}$ —184), おそるは(2)只恐加不良声引退 乗船遁去(寛仁三 $\frac{1}{10}$ —247) (3)禪閣招呼余 仍着簾前座 被示云(中略)仍所行也 而過訪事太恐侍者(万寿二 $\frac{1}{9}$ —77), おそろしは(2)天仰云 讓位事左府近日頻有催事 答云 伊勢祈後又今年以後随状可思定者 太奇事 甚恐事也(長和四 $\frac{1}{4}$ —28), フキは(2)人人云 故堀河左府 并院女院御息所靈所吐詞 一家尤有怖畏云云(万寿二 $\frac{1}{9}$ —62); キヨウフは(2)已始剋地震 人已恐怖(長和五 $\frac{1}{9}$ —443), キヨウクは(2)匡衡書状云 十余日許既復尋常了 而自昨日未剋許 未受飲食 至干今時恐懼怖畏(寛弘九 $\frac{1}{9}$ —280), キヨウクワウは(2)四条大納言及下官 不被定宛 若依非御傍親院司等歎 將有不許氣歎 相府不快之事 只近習卿相所令候也 還以可恐惶 依無過怠而已(寛弘八 $\frac{1}{10}$ —230), キヨウキヨウは(2)呼遣右馬頭

輔公 仰行幸日駒不可被馳之事 有感嘆氣 但恐恐示可申大殿之由了(寛仁二 $\frac{1}{2}$ 二202), おそれおもふは(42)頻被行配流事 極所怖思 宣旨文相改奉之(長元四 $\frac{1}{2}$ 三294), つつしみおそるは(43)就中伊勢太神有託宣之間 有非常過差 似無慎恐之御心歎(長元四 $\frac{1}{2}$ 三285), ははかりおそるは(44)参入尤多懼懼 罷向幸相許令伝申如何(万寿二 $\frac{1}{2}$ 三78), おそれつつしむは(45)今年有五ヶ災 天下可恐慎(万寿五 $\frac{1}{2}$ 三167), おそれをはかるは(46)相府報云 召牧司源訪可定仰也 件訪不家人 從茲召遣有恐憚歎 召遣可送者(長和四 $\frac{1}{5}$ 一419)などの例に示されている。

おそれおとろくは(47)頭中將示送云 神鏡昨奉移 但開旧御韓櫃 將奉納新辛櫃之間 忽然有如日光照耀 内侍女官等同見 神驗猶新 最是足恐驚者(寛弘二 $\frac{12}{10}$ 一209), おとろきおそるは(48)抑朝威之所致 非頼信之殊功 而忽奉褒賞之綸言 難抑驚恐之寸心(長元四 $\frac{1}{4}$ 三255), キョウクは(49)午終許大地震 上下驚懼(万寿二 $\frac{1}{2}$ 三45)などの例で示されている。

なお、恐れは具体例(32)(34)のように恐怖を示す場合と、(33)(35)のように恐縮を示す場合とがある。

5. あざけりやののしりを示すもの

あざけりは、わらふ(咲)・あさける(嘲), 複合語あざけりもてあそふ(嘲哂・嘲笑)・たはふれわらふ(戯笑)・あなつりおもふ(侮思)などによって示されている。ののしりはのる(罵), 恥ずかしめる意味の付け加わったハシヨク(罵辱)などによって表されている。

わらふは(50)日者内裏御猫産子 女院 左大臣 右大臣 有産養事(中略)猫乳母馬命婦 時人咲之云云(長保元 $\frac{1}{9}$ 一151), あさけるは(51)止音楽之宣旨下了 府更拳勝負楽可謂違勅歎 干左府拳音楽 万人或驚或嘲 甚奇怪事也(長元二 $\frac{1}{9}$ 三209), あざけりもてあそふは(52)先年齐信卿行赦令事 隔数日自仰下無前例由 諸人驚奇 且有嘲哂之人云云(治安四 $\frac{1}{13}$ 三22) (53)宣制兩段 諸卿每段再拜 叙人通任卿初宣制段再拜 相從叙人再拜 諸卿高声嘲笑(治安四 $\frac{1}{4}$ 三4), たはふれわらふは(54)又云 從昨尚侍赤班瘡序病 今日瘡出 仍止修法加持 義光朝臣伝 尚侍瘡出 即熱氣散 仍今日修法被加持 陪從女房戯笑無極 今思慮 加持早早歎(万寿二 $\frac{1}{2}$ 三59), あなつりおもふは(55)内府見此文歎 余追悔思 如此之時隨見文書可参入也 而心冷性慵 臨事不詳前例 愚頑甚(長徳三 $\frac{1}{4}$ 一138)などの例で示されている。

のるは社(56)其後兼房昇殿上 弥以放罵辱之詞云云 面罵蔵人頭 未聞事也(寛仁二 $\frac{1}{2}$ 二173), ハシヨクは(57)左大臣報云 一定了 被下式部省 被召返太可無便者 大殿大怒被罵辱 不可敢云 即以此罵辱御詞 被聞左府了(中略)被命可仰左府之由 其間罵辱不可算尽(寛仁二 $\frac{1}{2}$ 二213)などの例により示されている。

6. 恨みや憎しみを示すもの

恨みは和語うらみ(怨)・うらむ(恨・怨), 字音語エンコン(怨恨)・ランテキ(怨敵)などにより, 憎しみはにくむ(悪)・ゆひをはしく(弾指)などにより, それぞれ示されている。

うらみは(58)内内云 件為政先日相逢途中 不下馬相過 依其怨 即日申撰政所行也(寛仁二 $\frac{5}{4}$ 二188), うらむは(59)一日禪閣曰 隨吉平言令加持之所致也(中略)加持事深有悔色云云 亦被恨申三宝云云(万寿二 $\frac{1}{2}$ 三62), (60)阿闍梨折統来云 座主御心地無滅 彼讓状事 太以懇切 被送書札于源大納言許 此事

下官猶可令申者 頗有怨氣云 随状可左右也(寛仁三 $\frac{3}{4}$ 二281), エンコンは(61)記齊信卿失札事 及披露 齊信卿怨恨無極云云(万寿二 $\frac{2}{9}$ 三37), ヲンテキは(62)前日人人云 此南院者 関白道隆閉目処 一家怨敵 而忘其事所被住(長元二 $\frac{2}{13}$ 三213)などにより示されている。

にくむは(63)或云 前大貳惟憲愁嘆悶極 飲食忘味 関白云 年已臨七旬 出家尤可宜 有被惡之氣 若守宮神入関白心所令思歎(長元四 $\frac{4}{6}$ 三226), ゆひをはしくは(64)公家須捕追打雜人之者被下獄也 事之濫吹 未有此比 諸卿或彈指 或嘆息(長和二 $\frac{2}{20}$ 一337)などの例により表されている。

7. 怒りを示すもの

怒りは、和語いかる(怒・忿)・はらたつ(腹立)・いきとほる(憤), 字音語フンヌ(忿怒)・フンエン(忿怨)などにより示されている。具体例を挙げると、いかるは(65)院祭日并昨日見物給之間 被打調者多多 就中昨日被調業敏朝臣 烏帽曳乱髻云云 禅室依此事被大怒云云(治安三 $\frac{3}{18}$ 二340), (66)今夜皇太后可有行啓 雨脚時時降 仍無一定間 大夫道綱卿申明日可宜之由 太閤忿怒人簾中(中略)以権大夫経房令取案内 忿氣不散云云(中略)仍有行啓 太閤怒束帶 参彼宮被奉迎也 其間猶有忿氣云云(寛仁二 $\frac{2}{4}$ 二226), はらたつは(67)今日撰政依昨濫行事大腹立 勘当三位中将 令近江守惟憲捕従者(長和五 $\frac{5}{20}$ 二100), いきとほるは(68)今朝源大納言示送云 高麗使事其定如何(中略)牒已不送 日本何授位階 又知本位進一階所作也 牒文無本位 此間憤申侍(寛仁三 $\frac{3}{28}$ 二290), フンヌは(69)今夜右大臣参入 以資平被申左大臣 若勒使昇殿御慶歎 而御拜之間已無他事 時剋推移 右大臣佇立中門辺 不承返事 忿怒退出 左大臣聞更嘲哂(長和五 $\frac{5}{20}$ 二61), フンエンは(70)左衛門督頼通卿参春日 雲上侍臣地下四位五位六位悉以催役隨身参入 為下饗応深結忿怨云云(寛弘八 $\frac{8}{15}$ 一218)などである。

8. その他

次の4例を追加しておく。こころほそしは(71)昨今御目弥全暗給 太心細覚御由 有仰事(長和四 $\frac{4}{16}$ 二23), 心中穏やかでないことを示すやすからすは(72)主上被仰云 我昨談讓位事 是有不予事之故 而今有糸竹等之遊 心頗不安(長和四 $\frac{4}{16}$ 二30), 心配であることを示すウツウツは(73)聖上不予案内 以書状問遣中将許 返書云(中略)若復御平生御覽遠近物歎 此間太鬱鬱 重取案内(長和五 $\frac{5}{28}$ 一456), うろたえて取り乱すことを示すドをうしなふは(74)自太宰飛駟到来云 高麗国人鹵掠对馬壹岐島 又着肥前国欲鹵領云云 上下驚駭 三丞相失度(長徳三 $\frac{3}{1}$ 一138)などである。

以上、不快を表す場合の感情表現を見てきた。各感情の度合いの表現は、具体例の列挙を省略してまとめると、程度副詞きはめて(極)・もとも(尤・最)・はなはた(甚・太)・すこふる(頗)・おほきに(大)・いよいよ(弥), 状態副詞まことに(実・寔)・しきりに(頻), 形容詞きはまりなし(無極・罔極)・たくひなし(無比)・はなはたし(甚)・ふかし(深)・おほし(多), すくなからず(不少)・ひまなし(無隙)・なきにあらす(非無)・なきににる(似無), 涙に関してはあめのことし(如雨)・きんしかたし(難禁), たへず(不堪)・おさへかたし(難抑)・たる(足)などと一緒に用いて表されている。

なお、嘆而又嘆(寛仁二 $\frac{2}{27}$ 二231)・口惜口惜・嘆息嘆息(共に長和四 $\frac{4}{18}$ 一423)・悲代也悲代也(長

和三 $\frac{3}{4}$ —365)・可弾指可弾指(長和四 $\frac{4}{5}$ —223)などの例に見られるように、同一内容の反復による感情の度合いの表現もある。

三 ま と め

次に示す一覧表から、本文献に見られる感情表現は異なり語数の点で、(一)快を表す場合——1.喜びを示すもの20, 2.相手を褒めるもの4, 3.その他7で計31となり、(二)不快を表す場合——1.嘆き・悲しみ・愁いを示すもの35, 2.哀れみを示すもの3, 3.恥や悔いを示すもの4, 4.驚きや恐れを示すもの24, 5.あざけりやののしりを示すもの9, 6.恨みや憎しみを示すもの6, 7.怒りを示すもの6, 8.その他4で計91となっている。すなわち、感情の種類の数からその異なり語数の点からも、不快を表す場合のほうが快を表す場合よりも格段に多いことがわかる。これは、先の『御堂関白記』の場合と同じ傾向を示している。当時の貴族の日常生活では不快な事柄のほうが多かったのかも知れないが、筆者藤原実資は快よりも不快の感情により敏感であったのであろう。

次に語種の観点から言えば、快を表す場合は和語8・字音語19・混種語4であり、不快を表す場合は和語64・字音語25・混種語2である。すなわち、快を表す場合は字音語のほうが、不快を表す場合は和語のほうがそれぞれ多く用いられている。両者併せると、和語72・字音語44・混種語6となり、字音語が約37%を占めている。このように字音語の使用率が高いのは、和文語文献に比べ記録語文献の一つの特徴と言えよう。

最後に各感情の度合いの表現については、(一)快を表す場合と(二)不快を表す場合とでそれぞれ先述したので繰り返さないが、程度副詞やある種の状態副詞・形容詞、比喻、同一内容の反復などによって表されている。

なお、今後の課題として、晩景法性寺座主慶命僧都立過云 大僧正讓事 入道殿猶有難渋 摂政雖有和氣 只可在入道殿雅意者(寛仁三 $\frac{3}{23}$ —281)や凶悪之者盈滿内府 彼等気色不可敢言 愚也 頑也 奇也 怪也(長元四 $\frac{3}{4}$ —233)の下線部に見られるような、判断や批評の表現との関連を考察することが必要である。

(一) 快を表す場合							
1. 喜びを示すもの							
1	よろこび	慶	○ 83	3	なげきおもふ	嘆思	× 2
		悦	○ 39	4	なげきおそる	嘆念	× 1
		喜	○ 3	5	うれへなげく	嘆恐	× 1
		歓	○ 1			愁嘆	× 10
2	よろこぶ	悦	○ 42	6	かなしひなげく	憂嘆	× 1
		喜	○ 2			悲嘆	× 4
		歓	○ 1	7	おとろきなげく	哀嘆	× 1
3	よろこひおもふ	悦思	× 5	8	いきとほりなげく	驚嘆	× 2
		喜思	× 1	9	みなげく	鬱嘆	× 1
		歓思	× 1	10	タンソク	見嘆	× 1
		歓念	× 1	11	サタン	嘆息	○ 29
4	よろこひカンす	忻感	× 1	12	ああ	嗟嘆	○ 2
5	カンしおもふ	感思	× 1	13	あ	嗟呼	○ 7
6	おそれよろこぶ	悚感	× 1	14	あ	嗟	○ 1
7	ケイガ	慶賀	○ 30	15	かなしひ	哀	× 1
8	ガ	賀	○ 9	16	かなし	悲	○ 10
9	ガヘウ	賀表	× 1	17	かなしふ	悲	○ 3
10	カンエツ	感悦	○ 15	18	なげきかなしふ	嘆悲	× 2
11	キエツ	喜悦	○ 10	19	あはれひかなしふ	憐悲	× 1
12	キンエツ	忻悦	○ 2	20	うれへかなしふ	憂悲	× 1
13	エツヨ	悦予	× 2	21	かなしひなく	悲泣	× 7
14	キンキン	忻忻	× 2	22	テイキフ	涕泣	× 1
15	キヨウエツ	恐悦	○ 4	23	コクキフ	哭泣	× 1
16	スイキ	随喜	○ 16	24	なみた	涙	○ 5
17	テイキフ	涕泣	○ 6	25	ラクルイ	落涙	× 2
18	カンルイ	感涙	× 3	26	レンホ	恋慕	○ 1
19	ラクルイ	落涙	× 3	27	うれへ	愁	× 32
20	なみた	涙	○ 3	28	うれへまうす	愁	× 21
(計 288 例)				29	うれへうつたふ	愁申	× 32
2. 相手を褒めるもの				30	うれへくるしふ	愁訴	× 4
21	カンタン	感嘆	○ 31	31	うれへしぬ	愁苦	× 4
22	シャウタン	賞嘆	× 3	32	かなしひうれふ	憂死	× 1
23	カンジャウ	感賞	× 1	33	うれへふみ	悲愁	× 1
24	ホウジャウ	褒賞	○ 2	34	うれへジャウ	愁文	× 9
(計 37 例)				35	シウキン	愁状	× 1
3. その他				(計 237 例)			
25	こころよし	快	○ 7	2. 哀れみを示すもの			
26	こころやすし	心安	× 1	36	あはれふ	憐	○ 4
27	はちをきよむ	雪辱	○ 1	37	アイレン	哀憐	○ 6
28	コンセチ	懇切	○ 16	38	フヒン	不便	○ 1
29	ランワ	温和	× 1	(計 11 例)			
30	ケンキよろし	気色宜	× 1	3. 恥や悔いを示すもの			
31	シャヤス	謝	○ 9	39	はち	恥	○ 6
(計 37 例)				40	はつ	恥	○ 2
(二) 不快を表す場合				41	チンヨク	恥辱	○ 2
1. 嘆き・悲しみ・愁いを示すもの				42	くゆ	悔	○ 1
1	なげき	嘆	× 6	(計 11 例)			
2	なげく	嘆	○ 17	4. 驚きや恐れを示すもの			
				43	おとろく	驚	○ 125
				44	おとろきあやしふ	驚奇	× 47
						驚怪	× 1

『小右記』に見られる感情表現

45	おとろきまとふ	驚惑	×	1	82	いかり	怒	×	1
46	あやしひおとろく	奇驚	×	10			忿	×	1
47	おそれおとろく	恐驚	×	2	83	いかる	怒	×	12
48	キャウカイ	驚駭	×	2			忿	×	4
49	キャウテン	仰天	×	2	84	いきとほる	憤	○	1
50	おそれ	恐	×	36	85	はらたつ	腹立	×	6
		怖	×	1	86	フヌ(又はフント)	忿怒	○	10
51	おそる	驚	○	68	87	フンエン	忿怨	○	2
		懼	○	5			(計 37例)		
		怖	○	1	8. その他				
52	おそろし	畏	○	1	88	こころほそし	心細	×	2
53	おそれおもふ	恐	○	1	89	やすからず	不安	×	5
		怖思	×	1	90	ウツウツ	鬱鬱	×	10
		恐念	×	1	91	ドをうしなふ	失度	×	1
54	おそれつつしむ	恐慎	×	1			(計 18例)		
55	おそれをはかる	恐憚	×	3	注：表の○×は、そのことばが『三巻本色葉字類抄』(12世紀成立)に載っている場合に○印で、載っていない場合に×印で、それぞれ表したものである。				
56	おそれうけたまはる	恐承	×	2	(一) 快を表す場合				
57	おとろきおそる	驚恐	×	2	1.	喜びを示すもの			288
58	つつしみおそる	慎恐	×	1	2.	相手を褒めるもの			37
59	はばかりおそる	憚恐	×	1	3.	その他			37
		憚懼	×	1					計 362
60	フキ	怖畏	○	20	(二) 不快を表す場合				
61	キョウク	恐懼	○	12	1.	嘆き・悲しみ・愁いを示すもの			237
62	キョウフ	恐怖	○	8	2.	哀れみを示すもの			11
63	キョウクワウ	恐惶	○	1	3.	恥や悔いを示すもの			11
64	キョウク	驚懼	○	1	4.	驚きや恐れを示すもの			360
65	シヨウキヨウ	悚恐	×	1	5.	あざけりやののしりを示すもの			35
66	キョウキヨウ	恐恐	×	1	6.	恨みや憎しみを示すもの			24
		(計 360例)			7.	怒りを示すもの			37
					8.	その他			18
5. あざけりやののしりを示すもの									計 733
67	わらふ	咲	○	6					
68	あさける	嘲	○	1					
69	あさけりもてあそふ	嘲哂	○	3					
		嘲咲	○	1					
70	あさけりなけく	嘲嘆	×	2					
71	たはふれわらふ	戲咲	×	1					
72	ふくみわらふ	含咲	×	2					
73	あなつりおもふ	悔思	×	1					
74	のる	罵	○	2					
75	ハシヨク	罵辱	×	16					
		(計 35例)							
6. 恨みや憎しみを示すもの									
76	うらみ	怨	×	2					
77	うらむ	恨	○	3					
		怨	○	4					
78	エンコン	怨恨	×	1					
79	ランテキ	怨敵	○	1					
80	にくむ	悪	○	1					
81	ゆひをはしく	弾指	×	12					
		(計 24例)							
7. 怒りを示すもの									